

平成26年4月7日

各 位

公益社団法人 日本人間ドック学会
理事長 奈良 昌 治
健康保険組合連合会
参 与 松 本 義 幸

4月4日報道機関へ公表した内容について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は事業運営に際しまして格別なるご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、表記報道機関に公表しました内容と今後の対応について以下のとおりご説明致します。

これは健康保険組合連合会との共同研究事業として渡辺清明委員長の下で2年間の研究事業（平成25年～26年）で開始したもので、現在平成25年度分事業実施報告書として取りまとめ作業に入っている段階であり、予定として5月をめどに最終報告書を取りまとめることになっております。

公表しましたデータについては、この取りまとめ中間報告として厚生労働省及び報道機関へ公表したものです。

つまりこの事業実施報告書を受けて、私どものガイドライン委員会、役員会等にて議論した上で健診の現場で使える判定基準をこれから作成していくということとなります。

現在のデータは単年度の結果であり、今後数年間さらにデータ追跡調査をして結論を出していくこととなります。従いまして今すぐ学会判定基準を変更するものではなく、厚生労働省には特定健診の保健指導基準が性別、年齢別によって数値が違うものがあるという事実をご報告した段階であることをご理解いただきたいと考えております。

敬具

***新たな健診の基本検査の基準範囲（別紙）**

～日本人間ドック学会と健保連による150万人のメガスタディー～